

伊賀市上野西部 公民館だより



第 148 号

平成 27 年 8 月 15 日

編 集 発 行: 上野西部公民館

所 在 地: 伊賀市上野福居町

上野西部地区の人口 世帯数 1,480 人口 3,327 人(内男 1,586・女 1,741) 27.6.30 現在

防災コンサート 伊賀市文化会館

7 月 5 日(日)伊賀市文化会館さまざまホールで防災コンサートが開催されました。



東海トラフ地震が心配され防災意識が高まる中、もしコンサート中に地震が発生したら!をテーマに今回企画されました。開演前、主催者から手順説明の後、伊賀シンフォニックアカデミー吹奏楽団の演奏が始まります。そして 3 曲目の途中、会場に地響きの様な効果音が響き、照明が落とされます。観客、出演者も楽器をかかえ、身を守る姿勢を取ります。効果音が止むと、ドアが開けられ誘導灯を持ったスタッフの声と共に避難が始まります。

ロビーに集合避難完了の報告の後、主催者から講評が行われました。休憩の後コンサート再開、ホールに響く吹奏楽を楽しみました。

熱中症にご注意下さい

熱中症は気温が高い、湿度が高い、風が弱い、日差しが強い、閉め切った室内等の環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもる事で起こります。最高気温が 30℃以上の真夏は体調に気を配り、小まめな水分補給や、涼しい環境ですごしましょう。

涼しい服装



日陰を利用



日傘・帽子



水分・塩分補給



よい食生活をすすめるための集い

料理教室 参加者 募集 にんじん西部

テーマは 『 お祭りのおもてなし 』

開催日 平成 27 年 10 月 1 日(木)

時 間 午前 10 時～午後 1 時 30 分

場 所 ふれあいプラザ 4 階調理室

申込み 大谷 21-0405 谷 21-1798

対象者 上野西部地区老若男女の方 先着 30 名

持ち物 エプロン・三角巾・手拭・ふきん 2 枚。筆記用具

参加費 材料費 700 円 ※締切 9 月 18 日(金)迄

9 月は台風シーズンの為お休みします。

流しそうめん大会 健康福祉スポーツ部会

8月2日(日) 流しそうめん大会が開催されました。
好天の中、幼児・児童・大人 170 名余りが参加しました。準備が出来るまで幼児は涼しい室内で絵本の読みきかせ。児童は竹を切り、竹箸を磨く準備体験をして、順に流しそうめんをいただきました。他にぷよぷよすくい・スイカ割りを楽しみ、最後に冷えたスイカをいただいて盛況のうちに解散となりました。
健康福祉スポーツ部会、児童福祉関係者の方々、準備、片付けご苦労様でした。

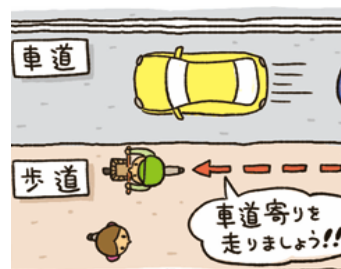


自転車は安全に乗りましょう

自転車に関わる交通事故が全体の約2割を占めています。ルールを守り安全な運転を心がけましょう。お互いを思いやり安全に心がけましょう。

1. 自転車は車道が原則
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道よりを徐行
4. 安全ルールを守る
5. 子供はヘルメットを着用

銀座通りの自転車通行は歩道の車道側を通行しましょう



伊賀市消防団夏季訓練 霊峰中学校



7月26日(日)伊賀市消防団夏季訓練が行われました。地震災害を想定した訓練



が午前9時より、霊峰中学校グラウンドで行われました。情報収集・避難広報訓練に続き、救出・救護訓練では消防隊と消防団の連携した訓練が行われ。水防訓練は土嚢作り、搬送、積み上げ、突き固めが各分団合同で手際よく進められました。最後に大規模火災想定訓練で消防車両にて中学校プールからホースをつなぎ遠距離送水による消火放水訓練が行われました。



訓練終了後、講評と団員表彰が行われ西部地区からは久保田さん(紺屋町)、吉田さん(相生町)が受賞され、閉会となりました。

天神祭 鬼・ダンジリの虫干し

鬼町ダンジリ町で虫干しが行われました。土用の時期の週末行われる行事です。今年も晴天の下、鬼町では面を出し、着物を広げ風を通し、ダンジリ町でも蔵を開け楼車に風を通し、幕・法被・着物を広げ風を通しました。町方は、祭り話に花を咲かせていました。来月9月9日は籤取り式です。



煌星俳句会

大野利江選評

草を刈る賽の河原の意馳思ひ 炊 規夫

刈つてもすぐ生える草。まるで賽の河原の小石を積みだと思ふ作者。その比喻が目新しい。

紅花でもてなす翁の記念館 辻野 和彦

「まゆはきを佛にして紅粉の花 芭蕉」

むかし伊賀の産物であつた紅花が記念館を飾る。

荒神輿担ぎ手はみな破れ足袋 田畑 寛一

平田の祇園祭の荒神輿。担ぎ手の足袋の破れに目を留められ勢いのある一句となつた。

小径いまくれなる令飲の花の径谷口 恂

いまの時期、小径はくれなゐの径となる。夢のようなメルヘンの径が美しく描かれた。

一枚に重なる切符梅雨湿り 百上 進一

切符が重なると言う事は二人の旅であろうか。梅雨をいとわず出掛けられる幸せな旅。

風止みてレースカーテン金縛り 富田 まり

カーテンが動かなくなつた。それを金縛りと。作者は表現自由な柔らか頭であられる

青田面に走り書きせる風の筆 蔵本 稔恵

青田水にさざ波が立っている景を、風の筆が何かを書いていようだと。風の筆が詩的。

大茶壺覗けば目高泳ぎをり

西村 郁子

昔使われていた茶壺を覗いたら目高がいた。その意外性がこの句を生き活きさせている。

枝先の小花に枝垂る百日紅

中森美年子

大木の枝が垂るほど小花がびっしり咲いている。鮮やかな紅と白の小花が目につく。

俳画サークル

